

店から言ってきたわけではなくて、円卓で言いますと、円卓がありますけれども、廊下にも協力企業だとかがいて、完全に燃料露出しているにもかかわらず、減圧もできない、水も入らないという状態が来ましたので、私は本当にここだけは一番思い出したくないところです。ここで何回目かに死んだと、ここで本当に死んだと思ったんです。

これで2号機はこのまま水が入らないでメルトして、完全に格納容器の圧力をぶち破って燃料が全部出ていってしまう。そうすると、その分の放射能が全部外にまき散らされる最悪の事故ですから。チェルノブイリ級ではなくて、チャイナシンドロームではないですけれども、ああいう状況になってしまう。そうすると、1号、3号の注水も停止しないといけない。これも遅かれ早かれこんな状態になる。

そうなると、結局、ここから退避しないといけない。たくさん被害者が出てしまう。勿論、放射能は、今の状態より、現段階よりも広範囲、高濃度で、まき散らす部分もありますけれども、まず、ここにいる人間が、ここというのは免震重要棟の近くにいる人間の命に関わると思っていましたから、それについて、免震重要棟のあそこで言っていますと、みんなに恐怖感与えますから、電話で武藤に言ったのかな。1つは、こんな状態で、非常に危ないと。操作する人間だとか、復旧の人間は必要ミニマムで置いておくけれども、それらについては退避を考えた方がいいんじゃないかという話はした記憶があります。

その状況については、細野さんに、退避するのかどうかは別にして、要するに、2号機については危機的状態だと。これで水が入らないと大変なことになってしまうという話はして、その場合は、現場の人間はミニマムにして退避ということをやったと思います。それは電話で言いました。ここで言うと、たくさん聞いている人間がいますから、恐怖を呼びますから、わきに出て、電話でそんなことをやった記憶があります。ここは私が一番思い出したくないところですよ、はっきり言って。

○質問者 武藤さんと細野さんは一緒にいるわけではないから。

○回答者 全然別です。ですから、本店です。武藤だったか、だれだったか、私も忘れたんですけど、そんな話ができるのは武藤ぐらいしかいないと思って、あのときですね。

○質問者 それに対して、お二方、武藤さんなり、本店側の人間に対して電話したときの向こうの反応はどうでした。

○質問者 別にどうということではなくて、そういう状況かということなんです。それでOKだとか、そうではないとかいう話ではないんですけど、私は、そういう危険があるよと、わかったと、そういう感じなんですね。私の行動としては、廊下にいた協力企業の方のところに行きまして、みんな、よくわからないでぼーっと見るなりしていますから、この人たちを巻き込むわけにいかないと思って、一生懸命やってきましたけれども、非常に大変な状況になってきて、皆さん、帰ってくださいと。退避とは言わないです、帰ってくださいと。（・・・）帰っていただければというお話をして、あとはこっちに持ってきて、こっちも声なかったですよ、その時点。あとは待つだけです。水が入るかどうか、賭けみたいなものですから。それだけやったら、あとはほとんど発言しないで、寝ていま

どタイミング悪く燃料切れみたいなの、そういうのがあって、またやらなかったら、また上がってくるということなんですね。

○回答者 そうです。これもどこで燃料入れて、水が入ったか、覚えていないんですけども、その後、下がっているんで、やはり水が入ったと思うんです。水が入ったら、逆に、今度は、水が加熱した燃料に触れますから、ふわっとフラッシュして、それで圧力がぐっと上がってしまったという現象だと思っているんですけども、また水が入らなくなる。そういう形で若干落ちてきて、そういう現象だと私は思っているんですけども、解析をやってみないとわからないです。いずれにしても、かなりこれは損傷して、メルトに近い状態になっていると私は思っていましたから。

○質問者 14日から15日のかけての夜ですね。

○回答者 はい。

○質問者 そのときは、実際、協力企業さんたちは帰られたんですか。

○回答者 まず、廊下にいる人はほとんど帰ったと。

○質問者 当時ですと、本部に詰められている東電の社員の方々いますよね。その人たちはどう。

○回答者 本部といますか、サイトですね。免震重要棟。そのときに、■■■■君という総務の人員を呼んで、これも密かに部屋へ呼んで、何人いるか確認しろと。協力企業の方は車で来ていらっしゃるから、(・・・)。うちの人間は何人いるか確認しろ。特に運転・補修に関係ない人間の人数を調べておけと。本部籍の人間はしようがないですけどもね。使えるバスは何台あるか。たしか2台か3台あると思って、運転手は大丈夫か、燃料入っているか、表に待機させると。何かあったらすぐに発進して退避できるように準備を整えろというのは、こんなところに出てきていませんが、指示をしています。

○質問者 それは、2号機とか4号機がああいう感じに、15日の6時になりますね。それよりももっと前にそういうふうにして。

○回答者 ずっと前です。2号機はだめだと思ったんです、ここで、はっきり言って。

○質問者 それは3号機とかよりも2号機。

○回答者 3号機は水入っていましたでしょう。1号も水入っていましたでしょう。水入らないんですもの。水入らないということは、ただ溶けていくだけですから、燃料が。燃料が溶けて1,200度になりますと、何も冷やさないで、圧力容器の壁抜きますから、それから、格納容器の壁もそのどろどろで抜きますから、チャイナシンドロームになってしまうわけですよ。今、ぐずぐずとは言え、格納容器があり、圧力容器、それなりのバウンダリを構成しているわけですけども、あれが全くなくなるわけですから、燃料分が全部外へ出てしまう。プルトニウムであれ、何であれ、今のセシウムどころの話ではないわけですよ。放射性物質が全部出て、まき散らしてしまうわけですから、我々のイメージは東日本壊滅ですよ。

○質問者 それで準備は一応、最低限の人間を残そうということで考えておられて、その